

# 隠岐魅力UP

日本一の山といえは富士山。その威容は世界に名を馳せ、先月はずいに世界文化遺産に登録され日本中が歓喜しました。

一方、隠岐島前の中ノ島(海士町)で有名な山といえは、代表的ジオサイトの一つ、金光寺山(東区)。大山隠岐国立公園に指定された標高1684mの山で、隠岐の島々が見渡せる風光明媚な場所です。約500万〜600万年前の島前火山の活動によってできた外輪山にあたり、1500m以上の高い部分は珪長質粗面岩という溶岩からなりま

す。不思議なのは、山頂付近でかつて湧水が見られたこと

と。普通、地下水は高い山に降った雨が地下を通過して低地で湧き出るものなので、山頂で水など湧くはずがないのですが……。原因については現在も研究が進められていますが、有力なのは「淡水レンズ」説です。火山島は水を通しやすい岩石でできているので、浸透した地下水が島の真下の地殻にたまり、淡水は島の周りの海水よりも軽いため、まるで海水をお碗にしてその上に真水が貯まっているような状態(淡水レンズ)になります。この貯水層は常に圧力を受けているので、山頂でも掘れば水が湧き出すのだと考えられています。

## 風光明媚な金光寺山

すっきり ワイドに きょろろページ

さて突然ですが、小野篁という人をご存知でしょうか。平安時代の貴族で、歌人、夜ごと井戸を通過して



金光寺山ガイドウォークで島前カルテラを説明する深谷さん  
|| 隠岐しせんむら提供

地獄に降り、閻魔大王の裁判の補佐をしていたという伝説もあるミステリアスな人物ですが、この篁が、金

光寺山の名のゆえんである「金光寺」と深い関わりがあります。承和5(838)年、遣唐船の乗船命令に従わず海士へ流罪となった篁は、京へ帰ることを祈願して、この山の寺に百日参籠。満願の夜更けに地藏菩薩が出現し、感動した篁はそこで一首。

「ほのぼのと 峰の細道 分け入りて 地藏光に会ふぞ嬉しき」  
すると菩薩は「わが姿を刻んでここに納めよ」と告げ、篁は翌日から仏像作りに入、ようやく完成したところまでまた一首。  
「朝日影 霧の山にぞたつみれば 金の光である寺にこそ」  
よってこの寺を金光寺と名付けた、という伝説です。(郷土史「ひがしの里」より)

このときの仏像が、現在も本尊として権現堂に納められていました。また、独特の生態系を観察できることも金光寺山の魅力。隠岐固有の植物や大陸系の植物など、絶滅危惧種も含めて多くの植物と出会えます。「今だとノカンゾウやオカトラノオ、夏にかけてはコオニユリが増えますよ」と教えてくれたのは、金光寺山に施設があるNPO法人「隠岐しせんむら」の深谷治さん。深谷さんはネイチャーガイドとして隠岐の自然の魅力を伝える伝道師で、ガイドが案内する「金光寺山ガイドウォーク」は人気のプログラムです。  
夏に向けてますます緑濃く、生命力豊かになっていく金光寺山。魅惑のフィールドへ、ぜひ遊びに来てく

ださい！  
(海士町役場総務課情報政策係 岡本真里栄)